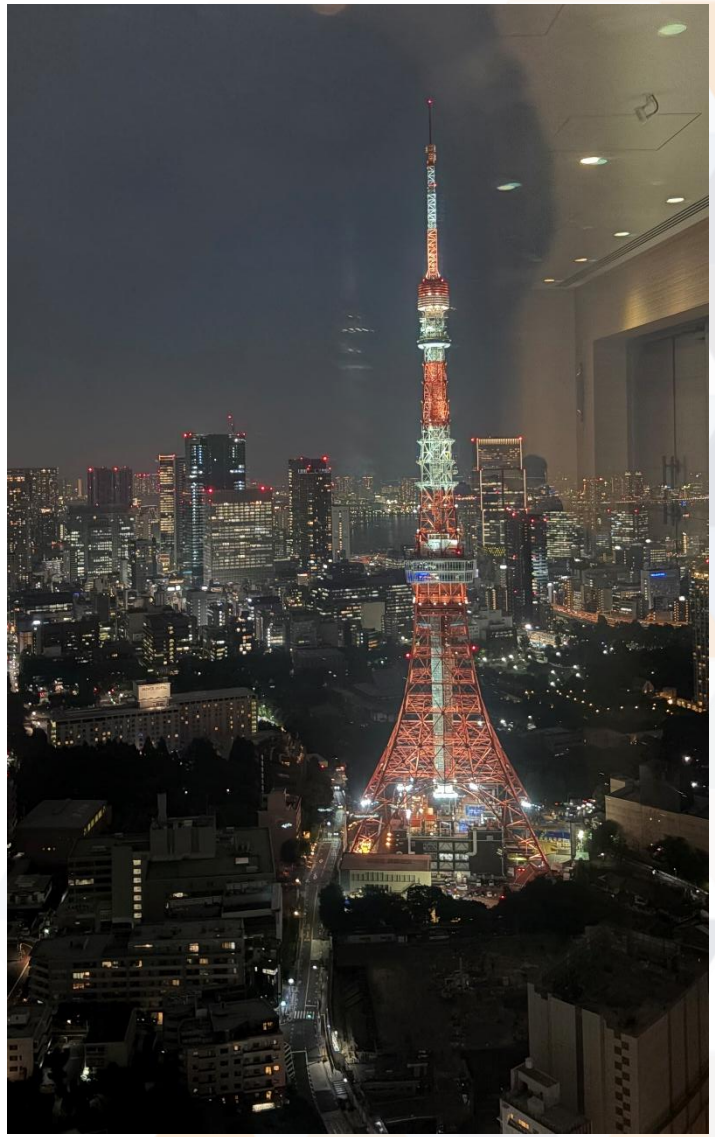
2026年7月17日-18日　第62回日本肝癌研究会（東京）に尾島と藤倉は参加しました。

尾島は『ディベートセッション2：超長期奏効例は薬物療法をやめられるか』（司会：波多野悦朗先生、ディベーター：建石良介先生 vs 能祖一裕先生）の審査員として登壇しました（審査員は谷合信彦先生、熊田卓先生とご一緒させていただきました）。

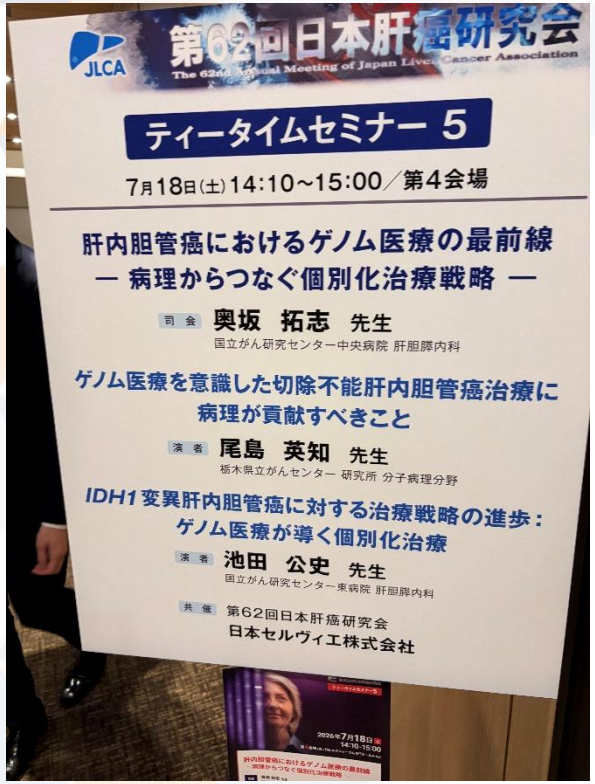
忖度なしの熱いディスカッションが繰り広げられ、白熱したバトルの末に建石先生の勝利で終了しました。ディベーターのお二人はもちろん、会場からのご意見も非常に素晴らしく、久しぶりに肝癌研究会らしい圧倒的な熱気を感じました。本セッションは武蔵野赤十字病院部長の土谷薫先生のご発案企画だそうです。大変刺激的で最高に楽しく、学びの多い時間となりました。素晴らしい企画をありがとうございました！（尾島）



会長招宴の会場からの夜景
今回の学会会場は　虎ノ門ヒルズ　都会です！

2026年7月17日-18日　第62回日本肝癌研究会（東京）に尾島と藤倉は参加しました。

尾島は、日本セルヴィエ株式会社共催ティータイムセミナーにて講演しました。







日本病理学会に続き、今回2回目の講演をさせていただきました。当日は約100名の皆様にご聴講いただいたとのことです。講演後のアンケートでは、「胆道癌の病理に興味が湧いた」という大変嬉しい回答も寄せられておりました。本講演を通じて、ゲノム医療への病理の貢献が不可欠であることについて、少しでもご理解を深める一助となっていれば幸いです。（尾島）

2026年7月17日-18日　第62回日本肝癌研究会（東京）に尾島と藤倉は参加しました。



写真左から、高橋裕之　先生、麻生 和信　先生、横尾 英樹　先生、私

旭川医科大学の先生方との温かなひと時

肝癌研究会の会期中の夜は、決まって旭川医科大学の先生方（時に他施設の先生方も合流され）との懇親会が開かれます。私にとってこの懇親会は、学会のたびに大変楽しみにしている行事です。今回ご一緒した横尾先生と高橋先生とは、以前国立がん研究センター研究所で研究をご一緒させていただいたご縁があります。現在は、横尾教授のご教室の堀川先生が、大学院生として当院（栃木県立がんセンター）に在籍されています。また、麻生先生は学会参加中であっても日課のジョギングを欠かさないパワフルな姿勢が印象的でした。当日は肝胆膵領域の専門的な話題だけでなく、プライベートな話題でも大いに盛り上がり、日頃の忙しさを忘れて心よりリラックスできる貴重な時間となりました。いつも温かい時間を共有していただき、心より感謝申し上げます。また来年、皆様とお会いできることを楽しみにしております。（尾島）

横尾先生、高橋先生
　　外科学講座 消化器・移植外科学
麻生先生　内科学講座消化器内科学分野